

B×Cのファーストランページを、隔月で連載するなら、
‘13年6月・9月・12月 ‘14年3月・6月・9月・12月 ‘15年3月の8回を想定。

最終章



BICYCLE×CYCLO

自分を信じて走る！ハンドレッドバイハンドレッド！

●ナショナルブルベ2013

某自転車雑誌編集長の故MIさんのアドバイスを受けて立ち上げた「ルート・エヌ」は、日本初のブルベと自負しています。

*

*

*

100kmを100回走ろう、と言う単純目標の「100×100」に、ディアゴナルコースやローカルブルベを加えて、ナショナルブルベを再提案します！

●スペシャルウイークに向けて

日本縦断のスピード記録をご存じだろうか？多分、Tさんの5日と7時間！！

*

*

*

距離は約2700km。単純計算で、1日400km走るとしても、7日間は要する。

*

*

問題は、親不知のトンネル＆獲道群だ！



●さんいん1300

PBPをリスペクトして企画したものの、日本の休日事情や、夏の暑さは未知数。試走で何とか可能性を感じ、一般公募で実施したところ、完走者が出現。

*

*

*

2013年のさんいん1300は、スピードウイークに向けて、南北両方向、1300km先から京都を目指して走ってもらえるよう企画中！完走の条件は、1200km以上を110時間で走ること。

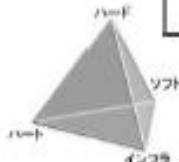


●サイクリストon信州

ローカルブルベのひとつとして、リバーロードははどうでしょう？それも分水嶺をワンペースで、日本海側から太平洋側に走るもの。

*

因みにルートは…「信濃川～十国峠～利根川」「千曲川～信州峠～富士川」「犀川・田川～善知島峠～天竜川」「犀川・奈良井川～新島居峠～木曾川」…。



B×Cのマウンテンバイクページを、隔月で連載するなら、
‘13年7月・10月 ‘14年1月・4月・7月・10月 ‘15年1月・4月の8回を想定。

最終案



BICYCLE×CYCLO

道なき道を自転車で切り開く！シンキングMTB！



●マウンテンデューロ信州

1988年、福島県山中で、日本初のMTB耐久レースが行われた。主催者も参加者も手探りで30チーム100名の好き者が集った。そう！「マウンテンデューロin羽鳥」は伝説のイベントだ。

*

*

*

その血脉を受け継ぐ耐久レースシリーズを信州で奥座敷型として実現したい。

●里山探検隊

日本には軽量車で行うバスハンティングがあった。ツーリング車でも日本一周で遭遇する酷道よりひどい道無き道がある。

*

*

*

山道の走破性という意味では、MTBの登場は衝撃だった。また、エジプト30王朝リーダーやコルシカバイクへの参加経験から、日本の山道でも実施可能と……！



●山の辺の道サミット

奈良盆地の東縁に残る「山の辺の道」は日本最古の幹線道と言われるが、中央部にあった大路が洪木等で流され、影響を受け難い小路が残ったに過ぎない。

山道や街道も土砂崩れや植物の繁茂の影響の少ない箇所が現存している。オールテインメントだからこそ、街道や古道や山道の利活用を考えることが可能です。

*

*

*

ここが「シンクMTB」の本丸です。



“Cycling”とは、
レースを含むスポーツサイクリング全般と提唱する
B×CのMTBツーリングのページです。

●マウンテンデューロ西部日本

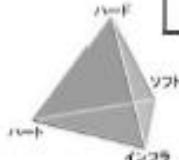
自転車遊びには地図地図型もある。年間を通じて雪の影響の少ない西日本で、耐久レースのウインターリーグを提案したい。

*

*

*

*



.... ご協力のお願い

最終案

もっと楽しく、もっと便利に、もっと安全に！
「自転車の驚き(楽しさと可能性)は普遍」です。

但し、その時代の分析や、未来へのグランドデザインが無ければ「移動の自由」は得られません。

今回の「Ver.2·6」は、「春需でソフトも売ろう！」を実現するための隠れた課題の洗い出しを目的に、その共通認識を高めるための「バイシクル・バイ・シクロ」を提案しています。

つきましては、皆様に下記のことをお願い申し上げる次第です。

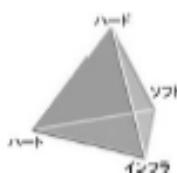
- ◆ファンド…意見広告またはタイアップページとして「B×C」の掲載を考えています。そのための出稿費用としてのご協力をお願いします。
- ◆スタッフまたはパートナー…自転車遊びの標準化や、自転車遊びの機会均等のためには、47都道府県に広く賛同者や実践者が必要です。インフラ整備の必要な無いソフトの充実から始めますので、個人、クラブ、NPO等を問わず、ご協力をお願いします。
- ◆サポート…仮想敵が存在する訳ではありませんが、「自転車の市民権を得る」という言葉がある以上、どこかに壁があると思われます。地域貢献も視野に入れた当企画へ、様々な側面で自転車に関係する団体等のご理解ご協力をお願いします。

呼び掛け:THTジャパン準備委員会(またはB×C製作委員会)

企画担当:転遊研／企画連携:日本自転車環境整備機構、JTB旅チャリ／企画協力:JCA、サイクルスポーツ、バイシクルクラブ

★転遊研…日本の風土に合った自転車遊びを摸索する、緩～い愛好家の集まり。その実証実験の中で“自転車さんぽ”を創作。
★日本自転車環境整備機構…震災をきっかけに、自転車のあらゆる環境を考えるNPO。“自転車さんぽ”を活動の柱のひとつにしている。

★JTB旅チャリ…電動アシスト自転車のレンタルシステム。エコや観光の側面から、“自転車さんぽ”とコラボ。



..... 資 料

最终案



※日本の実情に合った自転車遊びの模索で「自転車さんぽ◆◆THT26」を探り当て、エントリー層の入口として、主催の大小や目的を選ばない万能ソフトをほぼ確立。但し、どこでも実施できる内容は地味なことが必要条件でもあり、それを理解した上で、ご協力をお願いできる運営チーム数の拡大が、今後の課題であり、Ver. 2・6の主題です。



※災害風景と自然美は紙一重です。主催者にとって、日本の道は困難で危険な箇所が少なくありません。それでも走り出したら自己責任は不变です。ファストラン認定システムのナショナルブルベの確立と、その先にある自転車国道構想に向けた実証実験です。

※地産地消型(地元と都会のMTBクラブの交流)と奥座敷型(ショップやメーカーと地元行政の協力)の融合を通じて、日本の山道利用の再考(管理者へのアピール)をします。



..... {補足}

最終案

…現状分析と活動指針の方向性…

第二次サイクリングブームからのめり込み、MTBブームを仕掛けた側に居た立場からの分析は、大きくは間違っていない！？(注0)

自主企画の「とれとれバイク」「ブルベ」「自転車さんぽ」、さらにメーカー・行政のイベント運営で、関連団体や警察と情報交換し、また、建設コンサルタントや環境団体との交流もあって様々な角度から自転車走行環境を検証している。そして震災を挟んで、日本の自転車事情のコアな部分に同席する機会を得て、“日本の道”や“楽しむ環境”は、自転車にとって未だ不連続(注1)だと再認識した。

そのひとつに自転車の日常利用とスポーツ利用の二面性(注2)がある。その隔たりを「自転車さんぽ境界線(注3)」で埋めたい。年齢性別車種不問で楽しめ、主催者の大小や目的を選ばない「THT26◆自転車さんぽ」は、日本のどこの街でも実施可能なように、普通の道を普通に走るための工夫が施されており、その可能性を秘めている。そして、その新たなキーワードを共有するための自転車版賢人会議「山の辺の道サミット(注4)」も提案したい。

インフラ整備の必要無い自転車ソフトの重要性(注5)を訴えるには「山の辺の道サミット」だけでは不十分なため、地味ソフト「THT26」の欠点を補う「4タイムズ提案」や、47都道府県に100km推奨コースを設定する「ハンドレッド・バイ・ハンドレッド」や、山道をMTBで走る法的根拠を考える「シンクMTB」などの、自転車ソフト3原色の実証実験を多くの関係者に見える形で継続したい。

その見える形での提案として、複数媒体とのタイアップページや、旅行カウンターにも置ける自転車旅冊子の配布を考えており、そのページタイトル「B×C(バイシクル・バイ・シクロ)★」は、“自転車遊びは十人百色”や“自転車多様性”という意味。そして『Ver.2・6』は、全国のサイクルショップで「春需でソフトも売ろう！(注6)」の確立が前提の『Ver.3』へ向けてのアイドリング期間であり、自転車旅の商品化に向けた課題(注7)を探る。

(注0)「転遊研」の発想に至った過程で、MTBブームの仕掛けと、その後退を見たことで、ハードとソフトのタイムラグや、人材育成やインフラの不備を、身を持って体験！

(注1)“物理的”な道や施設や標識、“制度的”な休日事情や交通基本法、“精神的”な安全管理や責任の所在や市民権、“企画的”な交通システムやイベントやインフラ整備。

(注2)日常利用(歩行者的利用／遅い・1時間以内の使用) ⇔ スポーツ利用(自動車的利用／速い・半日以上の移動)

(注3)日本の特殊事情として溝を作っているだけで、本来は境目の無いグラデーションゾーン！

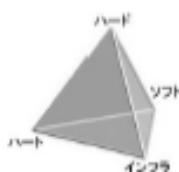
(注4)関係者の勉強会(時代で変化するグラデーションゾーンの認識)は絶対に必要。理論のパート！

(注5)日常利用の中にスポーツ利用を融合し市民権(特殊条件のイベントでは理解を得られない)を構築する。実践のパート！

(注6)日本の実情にあった自転車ソフト充実(多様化と開催数)が達成されてこそ、全国のサイクルショップや旅行カウンターで紹介が可能！

(注7)自転車ソフトの多様化に合わせたセキュリティの整備(責任の所在、保険、緊急対応)が急務！注5・注6を全国展開する際の最大のハードル！

★「B×C(バイシクル・バイ・シクロ)」は、2016年を目標に全国のサイクルショップで「春需でソフトも売ろう！」を標榜する『Ver.3』へのアイドリング期間としての『Ver.2・6』の旗艦企画で、「ボクラング」「ファストラン」「マウンテンバイク」の自転車遊び三原色のB×C的情報を、3つの媒体で定期リリースするものです。。。



..... {補足II}

最終案

B×Cの具体的セールスに入る前に今シーズンを終え、来シーズン以降に向けての追加・修正企画です。

ポタリング＝自転車さんぽ	ファストラン＝ルート・エヌ	マウンテンバイク＝Think MTB
<p>Good Machine+ Good mind+ Good Ride+ Good Road=マルチサイクリングクラブ 地域密着型等身大イベントで自転車走行 環境整備を訴える！</p> <p>萌黄のラリーデイ+さくら前線ラリー ⇒東部日本エリアで決勝大会</p> <p>紅葉のラリーデイ+おにぎりラリー ⇒西部日本エリアで決勝大会</p> <p>セルフチャレンジ 「甲信エリア」「東京23区」「東海道」「関西」「瀬戸内」「中国・四国・九州」</p>	<p>夏のロングライド・さんいん1300 2014年で8回目の開催！</p> <p>4年に1回のスペシャルウイーク A:日本縦断2700 B:本州縦断1600</p> <p>ライフワークコースクリエイト 一期一会の日本一周 もし外国人が日本を走るしたら… 日本風景街道を繋ぐコース選定とマップ作成とお披露目イベントと看板設置と！</p> <p>復活ルート・エヌ(100×100バージョン) 100・300・500の実力認定システム</p>	<p>奥座敷型フィールドの模索 Think MTB 信州</p> <p>新型MTBラリーレイドの模索 里山迷路を辿るツーリングコンペティション</p> <p>山の辺の道サミットの模索 日本の道を自転車目線で考える。</p> <p>マウンテンデューロシリーズの模索 4+2=6hour のシリーズ戦</p> <p>SBFサテライトイベントの模索 MTB+ファストラン+ポタリングのツーリングイベントの各地でのデモ開催</p>

